

学校行事

文化的行事

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立中山小学校	校長氏名	竹中 むつみ	生徒指導主事氏名	古本 美智子
-----	-----------	------	--------	----------	--------

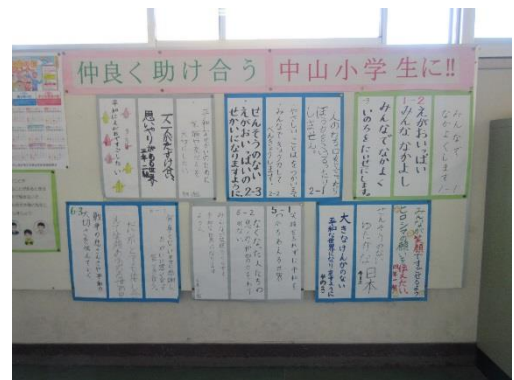
取組事例名 『平和集会』

取組のねらい『キーワード みんなで作る平和集会』

- (1) 平和に関する歌を歌ったり、学習したことを発表したりして、平和を願う気持ちを育てる。
- (2) みんなが協力して、集会に向けて取り組むことを通して、集団への所属感や連帯感を深める。

取組の具体的内容『キーワード 仲良く助け合う、中山小に！！』

- (1) 各学年が授業の中で学んだ平和学習について、発表をする。
- (2) 各クラスで作った千羽鶴と、そのときに各学級で考えた平和に関するテーマを書いた紙を紹介、掲示する。
- (3) 全校児童で平和の歌「折り鶴の飛ぶ日」を歌う。
- (4) 千羽鶴は8月4日に、企画委員の児童が平和公園に献納する。テーマは職員室前の廊下に掲示する。



取組の課題・創意工夫

- (1) 1年と6年は合同で鶴を折った。(6年生が1年生に教える。)
- (2) 取組方法については、児童会から保護者あてのプリントを配り折り鶴の制作に協力してもらった。一人1枚の折り紙を家庭に持ち帰り、家族で平和について話し合いながら折り鶴を折った。そして、家族で考えた平和への願いを鶴の裏に書いた。
- (3) 集会の準備・運営については、献納台の飾り付けを6年生、題字作成を5年生、司会・進行を企画委員の児童が行うなど、高学年の児童が中心になって準備を進めた。

取組の成果（効果）『キーワード 6年生は学校のリーダー』

- (1) 平和学習で学んだことを発表するので、自信を持って発表したり、興味を持って他学年の発表を聞いたりすることができた。
- (2) 春から繋がりを持っている6年生と1年生が、鶴の折り方を教えてもらいながら折ることで、更に繋がりを強く持つことができた。6年生に学校のリーダーとしての意識を持たせることができた。
- (3) 家族で平和を考えることができた。

今後の展開『キーワード 学んだことを日常生活に生かす』

- (1) 平和学習で学んだことをおりにつけて振り返り、日常生活に生かすようにする。

他校へのアドバイス『キーワード 年間の計画の中』

- (1) 平和学習を学級で、学年で、学校全体で、家庭で、様々な人たちの中で考えることができた。
- (2) 年間の取組の中で、他の行事と繋がるように、平和集会を位置付けている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東中学校	校長氏名	高橋 延昌	生徒指導主事氏名	山口 裕三
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『福山市立東中学校 文化祭 3 年ミュージカル・エルコスの祈り』

取組のねらい『キーワード； すばらしい行事と歌声のある学校』

東中学校には 4 つの特色があり、その 1 つに「すばらしい行事と歌声のある学校」があります。中学校の年間行事の中で体育大会と文化祭は特別活動の内容を計画的に取り組む大きな行事となります。特に 3 年生にとっては中学校生活最後の行事となり、今までの特別活動・学校行事等を通して集団行動を学び、身に付けた 3 学年集団の力を発揮する舞台となります。東中学校の文化祭では 3 年生のミュージカルが伝統になっています。それは体育科・音楽科・技術家庭科・美術科等で学び、総合的な学習で目標とする「課題を探索し主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる」ことや中学校 3 年間の特別活動（すばらしい行事と歌声）、その主たる目標の「望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養う」等を取組の柱とし、自己指導能力を身に付けるための積極的生徒指導の実践に向け、すべての教職員で取り組んでいます。



取組の具体的内容『キーワード； 一人一役全員主役』

特別活動（学校行事；文化祭）は生徒指導にとって重要な教育活動の場になっています。特別活動の指導において次の 3 点（生徒指導の三機能）を重視して取り組んでいます。まず 1 点目は「生徒に【自己決定】の場や機会をより多く用意し、生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする」ことです。次に「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」ことです。3 点目は「生徒と教職員の信頼関係及び生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」ことです。

東中学校、文化祭のテーマは「一人一役全員主役」というものです。特に、3 年生のミュージカルでは生徒一人一人が自らの判断で「役者・音響照明・大道具・小道具・背景・衣装」の中から役割を自己決定し、責任を持ち取組を進めていきます。この取組には「生徒に【自己決定】の場を与える」という要素があります。役者を希望した生徒は自分が演じたい役を選び、複数の生徒が希望した役に対してはオーディションを実施しました。オーディションでは実際に審査を行い、「セリフ・ダンス・歌声」を総合的に評価し、配役を決定しました。生徒は夏休みの間に練習を重ね、オーディションに挑みました。必死で努力したが、役者に選ばれなかった生徒は涙を流しながらも、次の目標（配役）に向け真剣に努力する姿と仲間から励まされ共に成長する姿がみられました。この活動には「生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」の要素があり、お互いを励まし合い、自分の役割に責任を持ち活動する姿は、特別活動の「望ましい集団の育成」に繋がっています。また、役者以外のパートでも生徒と教職員がミュージカルに向け課題を解決するため、真剣にお互いの考えや思いを伝え合い、取り組んでいる姿には「生徒と教職員の信頼関係を基に【共感的な人間関係】を育てる」という生徒指導の機能が活かされています。それぞれの役割に責任を持ちながら、各自の目標を達成することで、生徒一人ひとりがミュージカルの一員として主体的に参加し、自分らしさを発揮できたことが「生徒に【自己存在感】を与える」活動となりました。生徒会で話し合い、決定した文化祭のテーマ「一人一役全員主役」を実現できたことは生徒たちの自信となり、わずかながら自己指導能力の育成へ繋がりました。



取組の課題・創意工夫『キーワード； 自分の限界に挑戦』



特別活動「ミュージカル」を題材に取り組むとき、その学年集団・生徒実態を深く分析し、どのようなシナリオ・台本が適しているのか検討する必要があります。また、授業実数の問題もあるので、学校年間計画を立てる段階からどれくらいの期間で「ミュージカル」を完成させるかを検討します。本校では夏休み期間や土・日曜日を使い、限られた時間の中で生徒も教職員も自分たちの限界に挑戦する気持ちで取り組んでいます。しかし、授業時間確保のため限られた時間で集中して活動することが難しくなっています。特別活動は積極的生徒指導を効果的に実践するうえで重要な活動です。この特別活動「ミュージカル」の取組を継続できるように年間計画を工夫し、生徒と教職員の成就感、充足感、連帯感を高め続けることも課題となります。

取組の成果（効果）『キーワード； 夢・自信そして進路』

生徒の感想：「文化祭をするうえで、3年生は『一人一役全員主役』という言葉テーマをやってきた。私は道具係だったけど、道具あつての完璧な演技だと思し、もちろん他の係の人達がいる、ミュージカルができるので、裏方の人がどれだけ大切なものなのかという事がわかりました。役者ばかりが主役じゃないと思えたので、私も自分の仕事をやり遂げることができました。今回のミュージカルを通して、自分の仕事に責任を持たないといけないこともわかりました。この経験を生かして、自信を持ち、これから先にあること、まずは受検に向けて、今自分がすべきことをしっかり考えがらばって、後悔しないようにしていきたいです。」

3学年通信9月30日号 No.11より



今後の展開『キーワード； 東中伝統の継承』



特別活動；「学校行事」で積極的生徒指導が効果的に実践されるためには中学校3年間の計画的な取組が必要となります。体育大会は学年を超えた異年齢の集団を望ましい集団へ高める活動に仕組み、特に3年生には最高学年の自覚を持たせ、主体的に活動できるものにしていきます。東中学校の特色「すばらしい行事と歌声のある学校」が東中学校の伝統で、文化祭では3年生が「ミュージカル」をすることになっています。1・2年生がその「ミュージカル」を観て、「自分たちが最高学年になったら先輩を超えられるようなミュージカルを自分たちがやり遂げるんだ」と思える文化祭になるように取り組んできました。東中学校では特別活動；「学校行事」を積極的生徒指導の柱として学校を立て直してきました。今後は「守破離」という言葉のように伝統を守り、生徒達と共にそれを超える特別活動を新しく創る努力を続ける必要があります。

他校へのアドバイス『キーワード； ステップアップする行事（体育大会・文化祭）：三年生のプライド』



本校は9年前、問題行動が同時多発的に起こる荒れた学校でした。その当時、教職員が「この学校を変える。」という同じ目標に向け、学校行事に取り組んでいました。その活動の中で起こる様々な問題行動に対して丁寧に生徒指導（消極的生徒指導）を続けました。該当の生徒に対しても学校行事には主体的・協同的に参加するように指導しました。少なくとも3年間を見通し、3年生になった時の自分たちの姿がイメージできるように、ステップアップした特別活動を計画的に仕組んできました。3年生には最高学年としての自覚を持たせ、自己指導能力を身に着ける特別活動が自らの進路実現と自己実現に繋がると考えて取組を続けています。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立和庄中学校	校長氏名	上垣内 雄治	生徒指導主事氏名	新谷 企予子
-----	----------	------	--------	----------	--------

取組事例名 『エコキャップモザイクアート』

取組のねらい『キーワード：全校が一つに，地域が元気に』

本校では、3年前から、全校が一つになる場として、体育大会でのマスゲーム（1学期）、文化発表会でのモザイクアート（2学期）、卒業式（3学期）を設定し取り組んでいる。ねらいは次のとおりである。

ア 小さなエコキャップを並べ、全校生徒で一枚の絵を完成させることで、望ましい人間関係を築くとともに、責任感と所属感の向上を図る。

イ 実行委員を組織し運営させることで、実行委員の生徒がリーダー性を高める中で、自主的、実践的な態度を育てる。

ウ 完成したモザイクアートを地域からも鑑賞できるように校舎に掲示することで、学校の取組を発信するとともに、地域に活力を与える。

取組の具体的内容『キーワード：地道な作業，各自の責任』

1 エコキャップの回収

- (1) 1学期の文化委員会で、エコキャップの回収をスタートする。
- (2) 多く回収できたクラスを終業式で表彰する。

2 実行委員の募集（9月初め，部活動を引退した3年生が対象）

- ・生徒会執行部は文化発表会を企画運営するため、執行部が実行委員を募る。

3 実行委員会の準備

(1) デザイン決定

今年話題になった人物の中から、生徒も地域の方も見て元気が湧く人を選び、その人ならではの言葉を考える。

(2) 指示書づくり

フリーソフト「bigart」を用いて決まった写真（デザイン）をモザイク用に変更し、各クラスが担当する指示書を作成する。

(3) パワーポイント作成

全生徒が作業内容を正しく理解するために、作業の手順やコツを説明するためのパワーポイントを作成する。



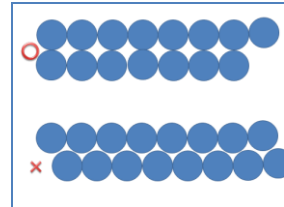
紙を貼り合わせる



色を塗る



指示書完成



パワーポイント例

4 ボランティア活動開始（9月～）

一学期から回収されていたエコキャップを色ごとに分ける。この作業は、完成するまで昼休みを使ってボランティア（2回で1つスタンプが貰える）で行う。



エコキャップの色分けボランティア

5 エコキャップ並べ

各学年1つの空き教室を使って並べる。また、各クラスに1名の実行委員がつき、エコキャップ並べの指導を行い、文化委員と共に進捗管理を行う。



指示書通りにキャップを並べます

段々全体像が見えてきました

6 テープ貼り

7 吊り下げ・完成（記念写真撮影）

8 実行委員による維持・管理

取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダーの育成とコミュニケーション能力』

1 リーダーの育成

- ・教師主導ではなく、主体的な活動にするため文化委員や実行委員会を組織した。

2 隙間時間の活用

- ・合唱や学年・部活動発表もあり、多くの時間が必要な時期のため、昼休憩を活用した。

3 作業の徹底

- ・全員が共通理解するための支援として、パワーポイントや教室の板書などを工夫した。

4 コミュニケーション能力の育成

小中一貫教育の一環として、「発達段階に応じたコミュニケーションモデル」を作成するとともに、計画的にコミュニケーションを重視した学習を仕組み、実践の場として活用した。

	前期 (小1～小4)	中期 (小5～中1)	後期 (中2～中3)	到達目標
思いやり	1 はきはきと心をこめた挨拶ができる。	1 時と場をわきまえた挨拶や敬語を使うことができる。	1 時と場に応じて適切な言葉遣いや行動をすることができる。	・自分も相手も大切にしようとする姿。 ・自ら手立てをみようと努力する姿。
かきわり	2 話の声をかけをすることができる。	2 思いやりの声をかけをすることができる。	2 状況に応じて適切な声をかけをすることができる。	
つたえたい	3 構えができる。 ・相手の目を見て話しかける。 ・主題と話題をはっきりと言う。	3 相手意識をもつことができる。 ・反応しながら聞く。 ・理由を言う。	3 対話ができる。 ・相手の話に進んで質問や感想を言う。	
ことば	4 ことばの数を増やすことができる。 ・「うれしい」「すごい」	4 同じ意味の言葉に言い換えることができる。 ・「うれしうれし」「OOのよう」	4 時と場に応じた言葉を適切に選ぶことができる。 ・「OOに感謝する」	
表現	5 自分の気持ちに気づき、出すことができる。 思いや感情 (感情)	5 相手の気持ちに気づき、自分の気持ちを出すことができる。	5 相手の気持ちを受け止めて、自分の気持ちを伝えることができる。	
表現	遠景・遠隔 他者との関わり 遠慮し (目標やめあて)			

コミュニケーションを重視した学習



取組の成果（効果）『キーワード：所属感、達成感』

- ア 所属感や達成感
- イ 先輩へのあこがれ
- ウ 地域への感謝
- エ 自己肯定感の向上



地域新聞の取材を受ける実行委員

－生徒の感想－

- ・並べるのは難しかったが、先輩がやさしく教えてくださってうれしかった。
- ・来年は実行委員がしたい。先輩や卒業した人たちにも受け継いでいることを知ってもらいたい。
- ・地域の人が声をかけてくれた。

－実行委員の感想－

- ・全員が参加しないと意味がないので、皆に声をかけやってもらうのが大変だった。
- ・地域の方や全生徒が協力して完成したこと、そして3年前からの伝統を受け継ぐことができうれしかった。
- ・今後は、さらに発展させてほしい。

今後の展開『キーワード：より主体的に』

- ア 教員が写真を撮ったり聞き取ったりした取組の様子を校内掲示し、活動の後押しをしている。
- イ アの広報活動を、パソコン部等の部活動と連動させたり、実行委員会の中に広報担当を作ったりするなど、より自主的、主体的な活動となるよう仕組んでいく。

他校へのアドバイス『キーワード：教職員の理解と協力』

- ア 新たな取組をしたり、全校で取り組んだりするためには、教職員の理解と協力が不可欠です。特に、教育的効果を事前に共有しておきましょう。
- イ 新しいものを作り出すことばかりにこだわるのではなく、すでにある行事を、いかに集団を意識させた取組にしていくかという視点をもつことだけでも大切です。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和中学校	校長氏名	三田 俊士	生徒指導主事氏名	梶山 篤
取組事例名 『子ども読書の日の取組』					
取組のねらい『キーワード：豊かな情操，よりよい学校生活』					
<p>ア 「子ども読書の日」の意義を理解し，読書に親しむ中で，豊かな情操を養うとともに，生涯にわたり，文化や芸術に親しんでいく態度や能力を育てる。</p> <p>イ 生徒会活動を通して，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画しようとする自主的，実践的な態度を育てる。</p> <p>ウ 読み聞かせで集中力を高めるとともに，本の世界に浸り，他者（本の中の人物）に共感する体験を通して，集団や社会の一員としてよりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。</p>					
取組の具体的内容『キーワード：本の世界に引き込まれて・・・《聴く姿勢・待つ姿勢》』					
<p>1 生徒会執行部を中心に「子ども読書の日」の取組（平成27年4月23日（木）1校時）</p> <p>①「子ども読書の日」の説明（担当教員）</p> <p>②お勧めの本紹介（生徒会執行部）</p> <p>③『千の風になって』読み聞かせ（教員・生徒会執行部）</p> <p>④『千の風になって』独唱（吹奏楽部）</p> <p>2 地域の力を活用した読み聞かせ&ストーリーテリング（平成27年4月24日（金）1～3校時）</p> <p>※内容：呉ストーリーテリング研究会のみなさんによる読み聞かせとストーリーテリング</p> <p>※形態：各クラス1人～2人ずつ，呉ストーリーテリング研究会の方に入ってもらい，話を聞かせてもらう。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード：継続』					
<p>ア 全体が集まって行う今年度のような取組を毎年継続することで，行事のたびに静かに集合し，集中して読み聞かせ（話）を聞く態度を醸成したい。</p> <p>イ 生徒自らが，より主体的に立案・計画して実施する取組が行えるようにしていく必要がある。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード：心に響く・心を耕す』					
<p>ア 今年度初めての取組であったが，昨年度末から計画し，先を見通して取り組んだことで，落ち着いた雰囲気の中で本の世界に入り込ませることができた。</p> <p>イ 母親を突然亡くし，母の死を受け止められずにいた生徒が，読み聞かせを聞いた後，涙があふれて止まらなくなったということもあった。これは，静粛な中で行われた読み聞かせや独唱で心の蓋が開いた瞬間だと考えられる。</p> <p>ウ 取組後，全体集会のたびに，先に体育館に入った生徒から静かに待てたり，時間を守って集合しようとしたりする姿勢が見られるようになった。</p>					
今後の展開『キーワード：生徒による主体的な読み聞かせ活動』					
<p>今年度は大人から読み聞かせをしてもらったが，来年度は自分たちが生徒に，あるいは小学生に対して選書し，練習して読み聞かせを行わせたい。そうすることで，自分たちが「昭和」をリードしていかなくてはならないという使命感が醸成され，自己肯定感が増し，地域の一員としての視野も広がると考える。</p>					

他校へのアドバイス『キーワード：地域公共機関との連携・人材活用』

今回の取組をするに当たり、呉市立図書館の方に読み聞かせボランティアのことを尋ねた。するとニーズにあった団体を紹介してくださり、つないでくださった。地域公共機関は専門的な知識や情報を持っており、教員だけではできないことも、可能になる。それをどのように活用し、取り組むかによって効果的な取組になる。

1日目



生徒会執行部による本の紹介



生徒による独唱『千の風になって』



きちんと整列 ワクワクしながら聴いています



『千の風になって』読み聞かせ



取組終了後、成功を祝って

2日目



食い入るような目・眼・瞳・・・
本の世界に浸りました。



読み聞かせの合間の指遊び—
童心に返って笑顔がこぼれる



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長氏名	笹口 由美子	生徒指導主事氏名	北野 茂樹
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『文化祭』

取組のねらい 『共感的人間関係の育成』

○全校生徒が、クラスや学年、組集団や部活動などの様々な場において協力して取り組み、一つのものを創り上げる苦労や喜び、達成感を味わうことで、共感的人間関係を育成する。



取組の具体的内容 『集団の協力』

【大竹中学校文化祭「いのち 輝け～つながる想い 心ふるえる瞬間～】

○ステージ発表

- ・ 1, 2年生各クラスによる合唱コンクール
- ・ 3年生各クラスによる演劇発表
- ・ 学年合唱と全校合唱
- ・ 部活動の発表（吹奏楽部によるステージ発表）
- ・ 芸術鑑賞（今年度は、大竹一番太鼓：地域の和太鼓演奏グループ、本校生徒、卒業生が所属）



○展示発表

- ・ 各教科の発表（総合的な学習の時間、国語科、技術・家庭科等）
- ・ 部活動の発表（美術部・ものづくり部による展示発表）
- ・ 特別支援学級の作品展示

取組の課題・創意工夫 『縦割り集団の活用』

○生徒会執行部、パートリーダー、監督（演劇）、部長等を中心とした主体的な活動になるように、年度当初からリーダー育成を意識した学年・学級づくり、部活指導を行っている。また、練習・準備の過程で、教員が声かけや援助、評価等を生徒の主体性を尊重しながら行っている。

○練習・準備の過程で、クラス間、組集団同士の間接発表や教え合いを行い、互いを高め合ったり、先輩のアドバイスをその後の練習に生かしたりするようにしている。

○各学年・学級のリーダーの育成が課題。



取組の成果（効果）『達成感、自己肯定感・存在感』

- リーダーを中心とした取組を進め、合唱や演劇等をやりきった達成感を味わうことができた。
- クラスの協力やクラス間、組集団の交流の成果が当日の発表に現れ、生徒の自己肯定感・存在感につながっている。
- 練習・準備過程の交流や文化祭終了後の組集団同士のメッセージプリントの交流により、共感的人間関係が育まれている。



今後の展開『発展』

- 大竹中のこれまでの伝統を守りつつ、さらなる発展をめざし、学級、学年、全校のリーダーの育成、リーダーを中心に全員が協力して取り組む体制づくりを進めていく。そのために、生徒たちに活躍の場を与え、その活動を教師が評価をすること、そして生徒にかかわり、やる気を喚起すること、サポートすることを意識する。



他校へのアドバイス 『教員の意識統一』

- 生徒指導（特別活動）を進めて行く上で、教員の意識統一が重要である。特別活動の取組のねらい（何のために）を明確にし、教員がそのねらいを常に意識し、同時に生徒にも意識させる。また、ねらいを達成するために、事前・事後の指導を充実させる。
- クラス間、縦割り集団の交流が有効である。
- 課題として、生徒が自分の頑張りを広く地域に情報発信するとともに、地域からのフィードバックがもらえるような工夫をすることが必要である。そうすることで、生徒の満足感や達成感、自己有用感も高まり、学校と地域の結びつきも深まると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長氏名	沼本 慎二	生徒指導主事氏名	吉岡 知美
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『リーダー指導を軸にした体育祭と文化祭に向けた取組』

取組のねらい『キーワード リーダー性の伸長』

本年度本校は耐震工事の関係で体育祭と文化祭の両方が2学期に実施となった。9月の体育祭から10月末の文化祭といった短い期間での開催となったが、反対にこの条件を生かすことを考え、体育祭でリーダーとしての動きを理解させ、文化祭で自主的に考え行動していく力をつけることをねらいとした。

取組の具体的内容『キーワード リーダーシップとフォロアーシップ』

今年度は体育祭で、昨年度まで全学年縦割り練習をしてきたソーランをあえてクラスでの取組に変更し、各クラスのリーダーの動きを前面に押し出させる方向で指導に入った。従って前年度まで組集団の演技であったものを各クラスでの発表という形に変更した。

まずは各クラスで4～5名のソーランリーダーを立候補で選出し、夏休み中に5クラス全体のリーダー会を実施し、全体リーダー会でリーダー長を選出した後、学年練習・クラス練習・リーダー練習・全校練習といった形で計画的に取り組みさせた。学年やクラスで講師を迎えて、基本の踊り方の指導を受け、一人ひとりがしっかり踊りの形を覚えきるまで何回も練習を繰り返させた。各クラスのリーダーは事前にリーダーだけのソーラン練習会を持つことで、全体の前で踊れる力量を身につけ、クラスの一人ひとりがきちんと踊れるように助言し指導する立場でクラス練習にのぞませた。

基本の形を学年やクラス練習で覚えたのち各クラスで考えた隊形練習に入り完成後、学年内での交流・全校での交流をする流れで練習させ、体育祭での演技発表につなげていった。

この取組で、リーダーとしての動きを学び、次の文化祭の合唱コンクールでのパートリーダーを体育祭のときより高い位置づけのリーダーとしての意識と動きを持ってのぞませた。ソーラン指導でリーダー的な役割をした生徒がさらに向上心を持ち、合唱のパートリーダーになることもあったが、リーダー的な動きをした生徒たちをフォローする力を高めるような場の設定を仕組むことで生徒の主体性を育てる動きを作ることができた。



取組の課題・創意工夫『キーワード ねうちづけし、効果的に伝える 』

取組の過程では、取組内容に一生懸命にがんばりきる生徒もいれば、あまり参加する意欲が無く、リーダーの指示に従わず文句を言ったりする生徒も出てくる。リーダーとして、どのような言い方で声かけをしたり、全体や個に対する評価をしていくべきなのかを教師側が指導したり気づかせたりすることが課題となってくる。思ったように周囲の生徒が動いてくれない時が生徒の成長の大きなチャンスだと捉え、彼らを支えていくことは当然として、リーダーとして周囲の生徒に訴えたいことや伝えたいことをどのように表現させたらよいかを考えさせることが重要となる。(リーダー研修会の実施) 以上のような活動で得たことを基にして、効果的な練習途中の言葉かけや、終了後の評価などで全体の士気を高めたり、細かい点を観察させ、成長が見られる部分を評価し、生徒自身の言葉で全体に伝えさせる場を確保しながら、教師による小さな成長を見逃さない評価を、リーダー・全体生徒に対して行っていくことが大切である。

取組の成果(効果)『キーワード 共感とわかちあい 』

ソーラン・合唱コンクールの取組の過程で、リーダーが頑張るという意識以上に、リーダーの中から「クラスのみんなで一緒にがんばりたい」といった言葉が出てくるようになった。リーダー同士もクラスを超えていい意味での刺激になったことはもちろん、しんどい部分を分かち合えたり、リーダーとしてどのように行動すべきか、お互いの良き相談相手になった。体育祭で学んだことが、次の文化祭での合唱コンクールへの取組意欲の喚起にもつながり、前のリーダーが現リーダーを支える雰囲気が出来たり、平素の掃除や当番活動においても協力し合っていこうとする姿が増えていった。

今後の展開『キーワード 日々の生活の中に拡げる 』

今回の取組は、クラス集団をベースとして、人前に立ってリーダー性を発揮するための場をできるだけ多くの生徒に提供することをねらいとして取り組んだが、今後は生徒会メンバーを中心に学年のリーダーとして取組むだけでなく、来年度の廿日市中学校を担っていくため全校生徒を巻き込んだ取組を企画運営していく力をつけさせなければならない。あいさつをもっと活発にさせることと無言そうじの完全実施に向けて、具体的な取組を展開していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 子どもたちをしっかりと見つめ、いっしょに動く 』

我々は、日々、問題行動を繰り返す生徒指導に追われ、前向きにさまざまな取組に尽力してくれる生徒たちと高い目標に向かってじっくり取り組むことが困難となる状況があるかと思います。本校も以上のような状況ではありますが、苦しいときこそ、教員がベクトルをそろえて前進していくことはもちろん、生徒の力を信じて高い目標に向かって一緒に進んでいきたいものです。

生徒は教師が関わる以上に、他の生徒からの真剣な関わりがあれば、更により良い方向へ変容していくはずで、課題を抱えた生徒たちも周囲の生徒たちから認められることによって、自己有用感を高め、自分の本来進むべき道に向かっていけると考えます。我々はまず生徒同士が一生懸命に活動し、そして語り合える場を提供し、教員はその活動をよく観察し支援しながら、生徒一人ひとりの行動や活動を価値化し伝えていかなければと思っています。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中学校	校長氏名	木村 通幸	生徒指導主事氏名	濱野 綾子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『合唱コンクールを成功させよう～全校合唱に挑戦しよう～』

取組のねらい『キーワード：歌声の響く学校』

昨年度の 2 学年は、生徒指導上課題をもっている生徒が多く、学校生活も落ち着かない状態だった。問題行動の約 65% をこの学年が起こしており、不登校率も 5% と極めて高かった。その反面、この学年の生徒は良い意味でもエネルギーに溢れ、学校行事に喜んで参加する姿があった。特に文化祭の合唱コンクールでは、学級が一丸となり合唱を創り上げることに情熱を注ぐことができていた。

今年度、本校のめざす学校像の一つに「歌声の響く学校」が加わった。特別活動の目標として、「集団や社会の一員として自主的・実践的態度を育てる。」とあるが、この目標を達成するため、合唱コンクールに、これまでになかった全校合唱を取り入れた。最上級生にリーダーとしての役割を担わせ、日頃の学校生活では体得できない充実感を味わわせることをねらいとした。

取組の具体的内容『キーワード：先輩から学び、より団結』

- ・合唱コンクールは、中学校時代において思い出に残る行事である。1 年生にとって初めてとなる合唱コンクールの練習に入る前の学級活動の時間に、昨年度の 2・3 学年の合唱ビデオを視聴させ、合唱コンクールの位置づけを伝える。
- ・話し合い活動を通して、自分が合唱コンクールでできる役割は何かを考え、積極的に取り組む姿勢をもたせる。
- ・今年度は全校合唱を取り入れ、より互いに協力し、より団結することを目標としていることを伝える。また、上級生のクラスと合唱交流を行うことで、先輩から合唱の素晴らしさを学ぶ。

取組の課題・創意工夫『キーワード：新たな試み』

学校全体が落ち着きを取り戻してきている中で、新たな試みを取り入れる時期としては適切であったが、全校合唱については、生徒主体で取組が進められなかったことが課題である。

取組の成果（効果）『キーワード：全員が MVP』

- ・合唱コンクールを通じて、各々が学級や学校への帰属意識を高めることができた。
- ・合唱コンクールを終え、全員が振り返りを行ったが、一人一人の見える活躍、見えない活躍が大きな力になることを感じさせる評価をすることができた。

〔生徒の振り返り〕

- 3 学年男子：全校合唱では 1・2 年生の歌声に負けないよう、3 年生がしっかり歌わなければという気持ちをもって歌うことができた。この全体合唱を来年度も続けてほしい。
- 2 学年男子：僕はクラスの合唱で指揮をした。みんなが頑張ってくれたので、学年最優秀賞がとれた。3 年生になったら、ぜひ全校合唱の指揮をしてみたい。
- 1 学年女子：朝や放課後などにみんなでパートごとに分かれて練習をした。最初のほうは声が出ていたけれど、だんだん声小さくなってしまった。けれど、一生懸命歌っている人がいるので、もっと一生懸命歌わないといけないと思った。本番では練習のときのように声は出せなかったけれど、がんばってくれる人もたくさんいたのでよかった。自分たちよりも、先輩の声がものすごく大きくて、ずっと感動していた。また、小学校のときは学年合唱しかしたことがなかったので、全校合唱はすごいと思った。また全校で歌いたい。

今後の展開『キーワード：来年度へつなげる』

- ・文化委員が合唱曲の歌詞を模造紙に書いたり，上級生のクラスとの合唱交流の調整を行ったり，委員としての仕事を全うできた。全校合唱についても，今後は文化委員会の取組に移行し，生徒が主体的に取り組む活動にしたい。また，文化委員を中心とするリーダーの育成を図り，今年度の反省を生かし，来年度も全校合唱を引き継いで実施したい。
- ・個人や学級で振り返りを行うことはできたが，先輩として後輩に何を残すことができたかを改めて振り返らせることが十分ではなかった。アドバイスやメッセージを何らかの形で残すことができればよかった。

他校へのアドバイス『キーワード：大規模校の強み』

本校は全校生徒632名の大規模校であるが，それ故，全体を詳細に把握することは非常に困難である。しかしながら，大規模校だからこそできる取組は何かを考え，今年度，迫力ある全校合唱を取り入れることができたことは，強みを生かした取組だといえる。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第二中学校	校長氏名	日名貞 秋典	生徒指導主事氏名	池田 義和
取組事例名 『合唱コンクール』					
取組のねらい『キーワード：二中ルネッサンス』					
学級単位で競い合うことで、①学級の絆や団結力 ②達成感や成就感 ③真面目に頑張る事の素晴らしさを体感させる。					
取組の具体的内容『キーワード：新たなる挑戦』					
<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに課題曲を1曲,学級ごとに自由曲を選曲。 ・伴奏,指揮,歌唱指導に至るまでリーダー役の生徒が行う。 					
取組の課題・創意工夫『キーワード：待つ』					
<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度は音楽科教諭や担任,学年担当がルールを敷くが,あくまでも生徒が主体であることを外さず,生徒による生徒たちの活動を終始行わせる。 ・よって,学級によっては取り組みが上手くいかない事もあるが,「待つことも指導」と捉え,生徒がその気になるまで,ある程度待つ。 					
取組の成果（効果）					
<ul style="list-style-type: none"> ・結果的に3年生が上位を占めたが,どの学年・学級も本気で取り組んでいる姿や本気で喜んだり悔しがったりする姿に感動した。 ・特に3年生のパワーを感じさせられた行事にもなり,続く文化祭や生徒会役員選挙にも良い影響を与えた。 					
今後の展開『キーワード：二中ルネッサンス第2弾』					
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動（主に委員会活動の取組を生徒指導的側面から活動していく）の活性化。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒『一委員会 一数值目標』 ・運動会の縦割りによるチーム編成。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒合唱コンクールで学んだように自治能力の育成。 ・部活動の更なる活性化。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒活気ある朝練・放課後 					
他校へのアドバイス『キーワード：積土成山』					
<ul style="list-style-type: none"> ・今できることを焦らず・欲張らずやり続けていく。 					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長氏名	宮里 浩寧	生徒指導主事氏名	川井 和郎
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『行事における主体的な取組の場の設定』

取組のねらい『キーワード 主体的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育て、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

取組の具体的内容『キーワード 3年生のリーダーシップ』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピールの時間（応援合戦）を設定した。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を新たに設定した。
- ・ オリジナルマスコットキャラクターを作成した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 条件の設定（教員の指導）』

課題

- ・ 取組に向けての時間の確保

創意工夫

- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
- ・ 文化祭のアピールタイムについては、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が考え、取組を進めた。

取組の成果（効果）『キーワード 達成感』

- ・ 体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていかこうとする姿が見られた。また、体育大会後の1・2年生の感想には、3年生への感謝の言葉、賞賛の言葉、自分たちが3年生になった時の見通しが書かれていた。



- ・ 文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。これまでの学級の取組を振り返ったり、担任・クラスメート・保護者などへの感謝の気持ちを表したり、それぞれの学級のカラーを活かして表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。



今後の展開『キーワード 生徒会のさらなる活性化』

- ・今年度の体育大会と文化祭の取組のきっかけは、生徒会執行部の強い要望であった。これらの取組を通して、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を見てきた新生徒会執行部では、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わり』

- ・生徒の好きなようにさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。
- ・生徒任せにして、教員はノータッチではなく、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、ともに頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長氏名	村田 聡之	生徒指導主事氏名	濱原 光伸
取組事例名 『吉中太鼓』					
取組のねらい『キーワード 自己存在感を高める』					
<p>今から 29 年前、「荒れた生徒の立て直しと学校への定着」を念じて生まれたものである。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付けることができるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生した。その後、太鼓を通じて自己存在感を高めることを目的に、全生徒を対象として、「心で打つ太鼓」を目指している。</p>					
取組の具体的内容『キーワード 主体的な学び』					
<p>総合的な学習の時間を利用して、毎週学年に応じた練習を行っている。文化祭・バチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表している。また、3 年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加している。発表の場をいくつか設定することで、1・2 年生は、3 年生の太鼓を目標に、3 年生は今回よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え練習に励んでいる。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード 継承』					
<p>現在の 3 年生が 29 期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始者の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけでは無く、メインで指導している職員も本校の在職期間が長く、次の指導の後継者に毎年悩んでいる。</p> <p>生徒については、毎年 3 月に「バチの受け渡し式」を通じ、儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード 太鼓が人を変える』					
<p>3 年生になり、人前での発表が増える頃になると、3 年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っている。</p> <p>更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれのリーダーへと成長している。</p>					
今後の展開『キーワード 吉和中で学んで良かった』					
<p>ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。</p>					
他校へのアドバイス『キーワード オリジナル』					
<p>ひとつの行事を継続することの大切さと、自分の学校にしかできない学びを大切にしていって欲しい。</p>					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長氏名	曾利 晋三	生徒指導主事氏名	大前 浩昭
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『縦割り学級合唱練習』**取組のねらい 『異年齢交流』**

異年齢による合唱練習を通して、学年を超えてお互いの良さを認め合い望ましい人間関係を築くとともに、共に向上しようとする意欲と態度を育てる。

取組の具体的内容 『縦割り学級合唱練習』

各学年・学級ごとの縦割りをつくり、各学級で合唱祭に向けて練習してきた成果を発表し合い、その後、自己評価・相互評価する。

取組の課題・創意工夫 『評価カードの活用』

学年練習においても、縦割り練習においても「評価カード」を活用してお互いの良い点・改善点を「評価カード」に記入し、その結果を基に生徒一人一人が課題を見つけ改善に向けて取り組んだ。また、各学級の実行委員が課題を解決するためにどのようにすればよいか考え、練習内容に取り込んでいった。

取組の成果（効果） 『達成感』

合唱曲の決定に向け、学級の中では意見が飛び交い1つに絞り込むことからスタートした。練習において色々なトラブルがある中で、それを乗り越え、合唱祭のステージに立ち、クラス全員の気持ちが1つになって歌った達成感は、これからの学級の大きな力になったと思われる。生徒自身が、創意工夫を行い、仲間と共に同じ目標に向かう努力をしたことは大きな成果であった。

また、特に1年生は、2・3年生の迫力を目のあたりにして自分たちも頑張ろうと目標をもった。3年生は、1・2年生の模範になるよう意識して取り組んでいる。歌だけでなく、出入りや態度・服装・姿勢・指揮者の動きなども意識した。

今後の展開 『生徒会』

合唱祭は、生徒会が中心となり多くの準備を行った。生徒会が自分たちの力で合唱祭をつくり上げようとする姿勢が、生徒一人一人の意欲を高めることにつながった。生徒の自治活動を高める上で、生徒会の果たす役割は大きい。今後も、生徒会が前面に全校生徒をリードしていく流れを作っていきたい。

他校へのアドバイス 『環境づくり』

本校は、学校外の公共施設を借りて保護者や地域の方を招いて行っている。歌う環境、発表の場としては校内と違い緊張した中にも、より達成感が増すように思われる。評価や表彰においても専門家の方にも参加していただき雰囲気をつくることでより効果が増したように思う。

合唱祭の取組の様子



クラスでの練習風景①



クラスでの練習風景②



クラスでの練習風景③



合唱祭に向けてのメッセージ



クラスで団結



市民会館（会場）



審査員席



クラス目標の掲示



合唱祭の様子



表彰式



最優秀クラスの合唱



生徒会反省会

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長氏名	山垣内 俊行	生徒指導主事氏名	櫻田 隆紀
-----	------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『平成 27 年度 沼南祭・体育祭』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』

「沼南生」としての自覚を持ち，集団の中でのルールを守り，規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

取組の具体的内容『キーワード 自己存在感を確認する』

「とり戻せ！！プライド」

6月の沼南祭（文化祭）では，家政科は，3年間の集大成としてファッションショーを実施した。ファッションショーは家政科の下級生が憧れる。そうして，目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科3年生は4つの研究班がそれぞれステージ発表を行った。普通科は，1年生が「桃太郎」の劇を英語で発表した。普通科3年生がとても羨ましく見ていた。小・中学校の時に経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ，鍛え，達成感を味あわせ，力と自信をつけさせる指導を行った。



10月の体育祭は，昨年までは，生徒会行事であったものを，今年度から学校行事として位置づけ，教職員ともども学校全体で取り組んできた。生徒の日々の成長した姿，そして一生懸命がんばる姿を，保護者や地域の皆さんの是非見ていただきたいという思いで取り組んできた。そうした取り組みのなか，生徒は各競技で一生懸命体を動かし，持てる力を十分に発揮した。入場行進やソーラン節は，昨年度からの行事であるが，今年はさらに進化して充実したものになった。これから本校の体育祭の伝統となっていくものと確信している。



取組の課題・創意工夫『キーワード 声を出して自己アピールする，他者を承認する』

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。
各集会や授業の始まりで，心を一つにした挨拶を行っていく。

取組の成果（効果）『キーワード 自己の所属の確認と他者の承認』

体育祭で印象に残る場面があった。午前の競技が終わり，全校生徒がグラウンドに整列し，諸注意を聞いた後，全体での最後の号令があった。今年から，授業の開始と終わり，そして全校集会等で，「1，2，3，4，5」のタイミングで深く挨拶を行うことを徹底してきた。この場面でも，生徒は，いつものように号令の合図で，深々と整った挨拶を行うことができた。そのとき，保護者席から自然発生的に大きな拍手がわき上がった。保護者や地域の方々から，生徒のみならず教職員も大きな達成感をいただくことができた。



今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み，全学年で徹底していく。
授業はもちろん，教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

他校へのアドバイス『キーワード 自己達成感，成功体験の積み重ね』

生徒自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね，自己肯定感を高めていく。
これは「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。
ただ，個人ではなく，学校組織としてこれらの取組を進めていくためには，教職員が一つのチームとならなければその効果が望めない。生徒指導主事のリーダーシップのもと教職員間でしっかり議論して，指導に関するフロントをそろえていくことが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長氏名	西山 光人	生徒指導主事氏名	井上 健二
取組事例名 『文化祭における全校写真展』					
取組のねらい『キーワード 感動の共有』					
文化祭のテーマである「笑喜泣感」に沿った写真を全校生徒から募集・展示することで、お互いの友情や愛情を認識するとともに、美しさに対する感性や感動する心を育てる。					
取組の具体的内容『キーワード テーマから考える』					
<p>1 ①「笑顔にあふれる生活」②「喜びに満ちた生日々」③「泣ける河内高校」④「感動を誘う風景」をテーマとした写真を撮り、メディアを学校へ持参するかアドレスにデータを送る。</p> <p>2 生徒会執行部が生徒会 P C を使って印刷し、特設展示場で展示する。(写真のタイトルや説明のコメントを生徒に書かせたものを添える)</p> <p>3 校内選考会で優秀作品を選定し、表彰するとともに、文化祭終了後には、拡大したものを額に入れ、一定期間廊下に掲示する。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード 伝える』					
<p>一番の課題は全校写真コンテストと題しながら、応募が約 6 割であったことである。周知の方法、応募期間、データの持ち込み方などの課題が残った。</p> <p>当初は、いたずらや肖像権、プライバシー侵害の問題を憂慮したが、応募された作品にそれらの問題は全くなかった。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード 他者理解』					
<p>花や海、夕焼けといった自然界の写真、犬や猫といった動物の写真、友達とのスナップ写真など応募された写真は様々であった。(裏面参照)</p> <p>文化祭の展示とあって、多くの生徒・来場者に作品を見てもらうことができた。そのことによる自己肯定感の高まりはもちろんであるが、他の生徒の意外な面や感性を知る良い機会になった。</p> <p>また、写真は単なる思い出の記録や記憶の補助でなく、見る者に感動や癒しを与えたり、相手に自分の気持ちを伝えたり、共有したりするコミュニケーションの媒体としての役割もある。そういう意味で今回のコンテストにおいて写真を撮る(被写体を探す)こと、見ることを通じて情操教育の一助となった。</p> <p>【生徒の感想】</p> <p>○空を見上げることが増えた。アルバイトで疲れているときに星空を見ると疲れがとれる。</p> <p>○人の写真を見て、自分と違って視点があると分かった。</p> <p>○笑顔の写真に癒された。</p> <p>○表彰されて嬉しかった。</p> <p>○自分が撮った写真が人を感動させられたいい。</p> <p>○テーマが絞られ過ぎ。もう少し自由に撮りたかった。</p>					
今後の展開『キーワード 発展』					
文章を書いたり、読んだりすることを苦手とする生徒が多い本校にとって、写真や映像は「伝える」手段、「考えさせる」手段として非常に有効であると考えます。今後は、写真を一つの教材として『一枚の写真から』と副題をつけて展開する授業や道徳教育も考えていきたい。					

他校へのアドバイス『キーワード 評価と継続』

今回は優秀作品のみを表彰したが、出品した写真には生徒それぞれの思いがあるはずである。1行でもいいからコメントや講評を入れることで、生徒の自己肯定感はさらに高まると思う。

【受賞作品】

『感動を誘う風景』部門優秀賞



タイトル 「夢につづく道」

コメント

透き通った青い空に未来に向かって虹が架かっている。私はこの虹のように夢に向かって進んでいきたい。

【表彰式の様子】



『笑顔にあふれる生活』部門優秀賞



タイトル 「笑顔」

コメント 笑顔は世界を明るくする。

【クラス用案内文】



～全校写真展～

平成27年5月25日
総務部(生徒会)

☆ 文化祭で生徒一人一人が撮影した写真を展示します。

テーマ

- ①「笑顔あふれる生活」
- ②「喜びに満ちた日々」
- ③「泣ける！河内高校！」(河内高校に關わる写真でなくてもよい)
- ④「感動を誘う風景」

※いずれかひとつのテーマに沿った写真を提出する。

☆ 撮った写真は、2L版の大きさに現像して学校へ持ってきてください。(担任へ)
☆ なお、個人で現像できない場合は次の①か②の方法でもOKです。

- ①撮影した写真のデータが入ったメディアを学校へ持つてくる。
- ②撮影した写真のデータを河内高校のアドレスへメール送信する。

アドレス : kouchi@hiroshima-c.ed.jp
件名 : 学年・クラス・氏名
データ名 : 学年・クラス・氏名
本文 : なし

☆ 必切: 6月1日(月)

尚 修 繕 に は
十 分 注 意 し ま
し ょ う。

※ 件 名、示一タ
名 に 忘 れ ず に 氏
名 を 書 か せ り、
誰 の 写 真 か 分 か
ら ぬ け り ま せ ぬ。